

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第3部門第4区分  
 【発行日】令和5年5月2日(2023.5.2)

【国際公開番号】WO2022/249798  
 【出願番号】特願2022-545913(P2022-545913)

【国際特許分類】

C 2 1 C 5/28(2006.01)

C 2 1 C 7/10(2006.01)

C 2 1 C 7/00(2006.01)

C 2 1 C 7/068(2006.01)

10

【F I】

C 2 1 C 5/28 Z

C 2 1 C 7/10 Z

C 2 1 C 7/00 N

C 2 1 C 7/068

C 2 1 C 5/28 A

【手続補正書】

【提出日】令和4年7月27日(2022.7.27)

20

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

炭素濃度 $[C]_i$ を0.5質量%以上3.0質量%以下とした処理前溶鉄を容器に収容し、該処理前溶鉄に大気圧下で酸素を吹精するとともに、水素ガスもしくは炭化水素ガスまたはそれらの混合ガスを吹き込んで前記処理前溶鉄の脱炭および脱窒処理を行なう、溶鉄の精錬方法。

30

【請求項2】

前記脱炭および脱窒処理を施した後の処理後溶鉄の窒素濃度 $[N]_f$ を30質量ppm以下とする、請求項1に記載の溶鉄の精錬方法。

【請求項3】

前記脱炭および脱窒処理を施した後の処理後溶鉄に、さらに真空脱ガス処理を施す、請求項1に記載の溶鉄の精錬方法。

【請求項4】

前記脱炭および脱窒処理を施した後の処理後溶鉄に、さらに真空脱ガス処理を施す、請求項2に記載の溶鉄の精錬方法。

40

【請求項5】

前記処理前溶鉄は、冷鉄源を溶解して得たものを含む、または、冷鉄源を溶解炉で溶解して得た1次溶鉄と炭素濃度が2.0質量%以上の溶鉄とを混合したものである、請求項1ないし4のいずれか1項に記載の溶鉄の精錬方法。

【請求項6】

前記冷鉄源が還元鉄を含む、請求項5に記載の溶鉄の精錬方法。

【請求項7】

前記容器が転炉である、請求項1ないし4のいずれか1項に記載の溶鉄の精錬方法。

【請求項8】

前記容器が転炉である、請求項5に記載の溶鉄の精錬方法。

50

【請求項 9】

前記容器が転炉である、請求項 6 に記載の溶鉄の精練方法。

10

20

30

40

50